

[illegible]

ヤクシカ対策におけるこれまでの取りまとめ一覧表(2-1)

ヤクシカワーキンググループ事務局

年度	河川界	モニタリング																個体数調査						被害防除										
		森林環境・被害調査								生息状況調査								検証事項						捕生保護措置										
		捕獲地調査		被害ライン調査		捕獲外捕生調査		希少種調査		賞賛調査		賞賛調査		スポットライトセンサス		増加率	♂調査		♀調査		検証事項		場所		設置数		場所		設置数					
		環境省	林野庁	鹿児島県	環境省	林野庁	鹿児島県	環境省	林野庁	鹿児島県	環境省	林野庁	鹿児島県	環境省	林野庁	鹿児島県	環境省	林野庁	鹿児島県	環境省	林野庁	鹿児島県	環境省	林野庁	鹿児島県	環境省	林野庁	鹿児島県	環境省	林野庁	鹿児島県			
平成25年度	1			○水久保																														
	2																																	
	3																																	
	4																																	
	5																																	
	6																																	
	7																																	
	8			○早山 ○川原 ○水田																														
	9																																	
	10																																	
平成26年度	1	※賞賛調査に 参加して105地 点で下層植生 や草本・木質層 調査等		○水久保		○(鹿子)					○(鹿子)																							
	2				○(鹿子)						○(鹿子)																							
	3						○(喜多郎)					○(喜多郎)																						
	4						○(小杉等、花之江)					○(喜多郎)																						
	5						○(モリヤム)		○(喜多郎)			○(喜多郎)																						
	6						○(小杉子林道)																											
	7						○(大川)																											
	8				○早山 ○川原 ○水田		○(喜多郎)		○(喜多郎)			○(喜多郎)																						
	9						○(一)					○(一)																						
	10																																	
平成27年度	1					○(鹿子)					○(鹿子)																							
	2					○(鹿子)					○(鹿子)																							
	3																																	
	4					○(喜多郎)					○(喜多郎)																							
	5																																	
	6																																	
	7					○(大川)																												
	8																																	
	9					○(喜多郎)																												
	10																																	

年度	結 果														その他	
	被害状況			生息状況			行動状況			個体数対策状況						
	■環境省	▲林野庁	●鹿児島県	■環境省	▲林野庁	●鹿児島県	■環境省	▲林野庁	●鹿児島県	■環境省	▲林野庁	●鹿児島県	■環境省	▲林野庁	●鹿児島県	
平成21年度		▲〔西部地域〕 標高150m～450mの範囲は、林床植生はヤシの食害を受け、下層植生が全く見られない。 標高450m～650mの範囲は、林床植生はほとんど見られなく、下層木には食害痕が見られる。 標高650m以上の範囲は、下層植生は後継樹の一部には見られるが、全体的には見られない。		■平均密度 35.9頭/km ■推定個体数 13,720頭 (95%信頼限界 11,788～15,678頭) ※16,015頭(90%信頼限界) 北 部 1,800頭 北東部 2,573頭 南東部 705頭 南 部 732頭 西 部 3,806頭 中央部 6,399頭		▲〔寛裕〕 半山 404.2頭/km・557.7頭/km 川原 679.2頭/km・1058.7頭/km ヒタシ 614.4頭/km・728.8頭/km ▲〔ラベンサス〕 半山 179.3頭/km 川原 175.5頭/km ヒタシ 205.4頭/km		■行動圏最大レンジ長 ♂: 約1,200m ♀: 約750m								
平成22年度					▲〔寛裕〕 半山(200m) 210.96頭/km・890.87頭/km 川原(220m) 480.25頭/km・1011.42頭/km ヒタシ(300m) 288.65頭/km・1960.15頭/km かわり(740m) 10.94頭/km・198.91頭/km 川原東(750m) 33.03頭/km・10.61頭/km ▲〔ラベンサス〕 半山 235.9頭/km 川原 330.2頭/km ヒタシ 246.7頭/km		■行動圏面積 ・♂09-2 113.5ha(最小面積法) 201.0ha(意外郭法) ・♀09-1 34.4ha 49.7ha ・♀10-1 4.9ha 65.3ha ・♀10-2 43.7ha 61.7ha	▲〔季節移動〕 かわり雄雌・西部林道北端は同じ範囲で行動西部林道南端雄雌の高 いところから低いところへ移動。 西部林道南端北西から南東へ移動。 個体差による移動が見られる。 ▲〔行動圏面積〕 雄雌平均約30ha 雄31.7ha 雌21.8ha 雄が1.5倍広く行動している。								
平成23年度	■奥島のヤクザザは、シカの採食により樹小化が見られ始めている。現時点で植物相変化やヤクザザ等後退という深刻な影響は出ていないと推察。	▲〔被害ライン調査〕 「被害ランク(調査1km)(A:激、B:中、C:軽、D:食害なしの4ランクに分類)」 尾之関上: B 6地点、C 14地点 尾之関中: C 20地点 尾之関下: A 3地点、B 10地点、C 7地点 愛子西: B 17地点、C 3地点 明子東: B 3地点、C 17地点 愛子東: B 19地点、C 1地点 一滝林道: A 5地点、B 12地点、C 3地点 宮之浦林道: A 6地点、B 6地点、C 8地点 大川林道手前: A 3地点、B 17地点 大川林道奥: B 2地点、C 16地点 小瀬田林道奥: B 3地点、C 17地点		■奥島推定密度 4.0頭/km ■愛子島周辺推定密度 ※捕獲効果モニタリング ・高密度(31～70頭/km) 愛子島、船行、牧場 ・中密度(11～30頭/km) 小瀬田林道 ・低密度(1～10頭/km) 横川歩道、釜川歩道、落川北 ■西部推定増加率 年平均7%	▲〔寛裕〕 半山(200m) 228.8頭/km・522.8頭/km 半山上下 299.7頭/km・429.0頭/km 半山下下 678.9頭/km・667.2頭/km 川原上(97～) 303.85頭/km・205.3頭/km 川原下上 311.7頭/km・315.9頭/km 川原下下上 360.07頭/km・223.7頭/km ヒタシ(300m) 195.3頭/km・601.3頭/km 尾之関上 8.8頭/km・9.3頭/km 尾之関中 10.9頭/km・14.8頭/km 尾之関下 0.3頭/km・6.1頭/km 愛子西上 73.2頭/km・48.0頭/km 愛子西 72.5頭/km・99.30頭/km 小瀬田林道奥 76.1頭/km・8.3頭/km 第二小瀬田 14.9頭/km 一滝林道永田 94.7頭/km・64.9頭/km 大川上 49.7頭/km・44.1頭/km 大川下 33.4頭/km・62.9頭/km 宮之浦林道 31.1頭・20.2頭/km ▲〔ラベンサス〕 西部林道(かわり) 290.7頭/km 西部林道(川原) 206.0頭/km 西部林道(ヒタシ) 356.5頭/km 大川林道 256.8頭/km 湯治林道 59.3頭/km 小瀬田林道 200.4頭/km 宮之浦林道 189.1頭/km 一滝林道 132.7頭/km		▲〔行動範囲〕 大川林道 全期間で20ha 宮之浦林道 全期間36ha 小瀬田、第二小瀬田 全期間750～142ha 雄が雌より行動圏は大きい。 西部林道・大川林道・宮之浦林道 高利用域は林道に沿った斜面。	▲〔自動カメラによる捕獲方法別の反応調査〕 西部地域 餌付け効果があり、捕獲網による捕獲の期待ができる。 雄夜を問わず活動している。 北東部地域・小瀬田地区は餌付けの効果がある。夜間に活動し0時～3時にかけて活発に活動している。 ▲〔捕獲ネットの検討〕 ストレスや捕獲処理のしやすさから円形の網が好ましい。								
平成24年度		▲〔被害ライン調査〕 「被害ランク(調査1km)(A:激、B:中、C:軽、D:食害なしの4ランクに分類)」 半山: A 8地点、B 11地点、C 1地点 川原: A 19地点、B 11地点 ヒタシ: A 19地点、B 11地点 横切: A 19地点、B 11地点 大川林道奥: A 2地点、B 5地点、C 11地点、D 2地点 中間林道: A 1地点、B 9地点、C 10地点 湯治林道: A 3地点、B 12地点、C 5地点 尾之関下: A 6地点、B 7地点、C 4地点、D 3地点 小瀬田林道奥: A 1地点、B 16地点、C 1地点、D 2地点 愛子西: A 3地点、B 10地点、C 7地点 宮之浦林道: A 14地点、B 6地点		■平均密度 52.0頭/km ■推定個体数 19,249頭 (90%信頼限界 15,680～22,016頭) 北 部 2,763頭 北東部 2,936頭 南東部 326頭 南 部 779頭 西 部 5,027頭 中央部 7,516頭	▲〔寛裕〕 半山(190m) 337.7頭/km・247.7頭/km 川原(190m) 441.7頭/km・303.2頭/km ヒタシ(300m) 228.7頭/km・124.7頭/km 湯治林(190m) 196.3頭/km・100.4頭/km 尾之関下(250m) 77.9頭/km・92.2頭/km 小瀬田林道奥(260m) 52.2頭/km・21.5頭/km 愛子西(180m) 112.6頭/km・76.8頭/km 一滝林道永田(300m) 119.9頭/km・99.1頭/km 大川上(540m) 48.2頭/km・49.1頭/km 中間林道 97.4頭/km・20.1頭/km 湯治林道 30.8頭/km・5.7頭/km 宮之浦林道(160m) 99.3頭/km・48.9頭/km ▲〔ラベンサス〕 西部林道(かわり) 409.5頭/km 西部林道(川原) 517.1頭/km 西部林道(ヒタシ) 367.8頭/km 大川林道 168.5頭/km 湯治林道 20.3頭/km	●推定個体数 全体: 18,677頭(95%上限値: 23,882頭) 北 部: 2,654頭(3,776頭) 北東部: 2,796頭(3,825頭) 南東部: 310頭(496頭) 南 部: 772頭(947頭) 西部: 4,793頭(6,355頭) 中央部: 7,352頭(8,483頭) ●推定密度 吉田: 40.0頭/km 西部所有地: 135.1頭/km 中間: 93.9頭/km 南部林道: 29.8頭/km	▲〔行動圏〕 西部地域: 林道に依存した行動圏を持つ。大川林道では、林道から少し離れた場所を利用。 北部地域・北東部: スギ人工林が行動圏の中心。 北東部: 朝～夕方林道から遠い箇所、夜間に林道や集落で行動。	▲〔ヤクシカ捕獲マニュアル〕を作成。	●誘引装置による試験捕獲 奥島島和宮牧場(長峰牧場)において、誘引・射撃地点を6地点設定し、試験捕獲を実施。 〔餌付け状況〕 約1ヶ月の餌付け期間中、ヘイキューブ、サツマイモは食害されなかった。(牧場に散布している牧草が影響) 圧片トモロコシは給餌後すぐに食害され、誘引効果が高いことを確認。 〔捕獲〕 6地点のうち、2地点を散弾銃(スラッグ弾使用)、3地点をライフル銃での捕獲を計画。捕獲期間(3日間)設定したが悪天候により実施は1日)で頭を捕獲(散弾銃)。							

ヤクシカ・ワーキンググループ事務局

[illegible]